

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 鳥海)

事業所番号	0690700281		
法人名	医療生活協同組合やまがた		
事業所名	グループホーム和楽居		
所在地	鶴岡市日枝字海老島63番5		
自己評価作成日	令和 3年 12月 14日	開設年月日	平成 29年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の希望を安全に叶えるにはどうするかを考えて対応している。
 天気の良い時期は日常的なケアに散歩を取り入れている。また、月一回程度は外出レク(外出+昼食を食べ
 て帰ってくる)を行い、外出の機会を作るようにしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、外
 出レクは行うことができていない。
 普段の食事は手作りにこだわり、入居者様と職員が一緒に食事作りを行っている。また、行事食等でうなぎ、
 おせち、寿司、ラーメンなどの出前を頼むこともあり、食の楽しみを大切にしている。
 2019年8月より、歯科衛生士を1名配置し、口腔ケアに力を入れている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 4年 1月 11日	評価結果決定日	令和 4年 2月 3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本人の意思を一番に考え利用者一人ひとりに合わせ、その人の持っている世界を尊重し家庭のように過ごせ
 るよう取り組み、要望等は否定をしないで受け止め、安心安全にかなえられるよう常に考え利用者や家族の
 満足に繋がっています。コロナ禍の影響で地域との交流や外出制限の中でも、散歩にはコロナ禍前と同じよう
 出かけています。利用者からは家事等の役割分担をしてもらい、継続できるよう取り組んでおり、笑顔で穏や
 かに暮らせるよう支援しています。職員は日頃から「鳥海」「月山」の2つのユニットを均等に担当するシフト制
 を取って利用者全員と関わり、統一した対応で互いに協力し一丸となって利用者・家族等を支援している事業
 所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカードの上に掲示し、出勤前に読むように呼び掛けている	職員は出勤時に掲示してある理念を黙読している。理念に沿って家庭的で温かい雰囲気づくりに努めている。会議時に振り返り、管理者との面談時は目標と理念について話し合い、共有して実践にむけて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	海老島町、城南町の町内会長に運営推進委員をお願いし、歌のボランティア、行事の時のひとみ保育園児の訪問を企画していたが、新型コロナウイルスの影響で実施できていない。天気の良い日の散歩は継続している。	コロナ禍で以前のような地域との交流はできなかったが、天気の良い日や近所への散歩は継続して出かけている。例年通りの開催は出来なかったが、縮小してクリスマスに保育園児が来訪し利用者と触れ合い喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため、運営推進会議が開催できていない事もあり、今年度は地域に向けての発信はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回文書報告を行い、意見を募っている。	市役所・2町内会長・家族代表・入居者代表などが運営委員となっており、コロナ感染症防止の為文書を郵送している。利用状況・事故やヒヤリハット・行事・身体拘束などの文書報告をして意見等がある場合は返信してもらい、取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員と市役所の担当者から運営推進会議メンバーになっていただいている。コロナ禍のため、昨年度より文書報告とし、質問や意見がある場合には電話連絡をもらっている。月2回の介護相談員訪問もコロナ禍のため受け入れができていない。	コロナ禍のため市とはメールや電話での連絡がメインとなっており、介護相談員の来訪も中止となっている。不明なことがあれば出向いて話し合い等を行っており、協力して連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束廃止指針に基づき、身体拘束をしないケアを行っている。運営推進会議内で身体拘束廃止委員を開催している。開設以来、身体拘束はしていない。また、身体拘束の学習会は年1回eラーニングにて実施している。	玄関は夜間のみ施錠し、昼間は赤外線センサーと玄関マットセンサーを取り付け、出入りを把握している。利用者が出かけたがる場合は一緒に出かけ、自由な暮らしを支えている。職員は認知症介護部会の企画する身体拘束の研修を受講して理解し、身体拘束ゼロのケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内に虐待防止委員会を設置。月一回委員会を開催している。また、年1回虐待についてeラーニングを行い、職員の理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所としては学ぶ機会を作ることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は、丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者代表、家族代表を運営推進会議メンバーとし、文書報告を行って意見を募っている。また、投書箱を設置している。通院時など家族が施設に来た時に声をかけ、意見や希望を確認するようにしている。	家族等が来訪した時には、職員は笑顔で声がけし、遠方の場合は電話等で生活状況を報告し意見や要望等を聞き、遠慮なく話せる雰囲気づくりに努めている。コロナが落ち着いた12月には時間や回数を制限して面会を再開している。利用者・家族等からの要望で出来ることはすぐに実行し安心に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回部門会議を開催し、運営状況の報告を行うと共に、意見や提案を募っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>介護ラダーを行い、その際に面談も実施。個々に話をしている。</p>			
13	(7)	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人教育委員会で年間計画を作成し研修を行い、外部研修についても案内を職員に回覧し案内している。また、毎年職員が自分の目標を決めて達成に向けて取り組むことで、成長と達成感の獲得に繋げている。今年度より、職員にeラーニングのアカウントを配布し、学習会に活用している。</p>	<p>webを利用した研修を導入し理解を深め、身体拘束等の意識が向上している。職員は個人目標を立てて取り組み自己評価し、上司との面談でアドバイスを受けてスキルアップにつなげている。今後は介護部発表会を取り入れる予定である。</p>		
14	(8)	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>コロナ禍のため、法人外との交流はほぼできていない。法人内では、介護部や法人教育委員会の研修で一緒になるが、グループワークを中止する研修もあり交流の機会は減少している。</p>	<p>市グループホーム部会、学習会や関連法人と交流を行っていたが、コロナ禍で感染防止から行っていない。法人内事業所とは日常的に交流し、得られたことを業務のスリム化やサービスに活かしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の調査時と契約時に、本人の意向を確認し、不安なことなどが無いかな、確認している。</p>			
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居前の調査時と契約時に話を聞いている。</p>			
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>アセスメントと日常の会話の中で対応できるように努めている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や身の回りのことはすべて職員が行うのではなく、自立支援の観点から、できることは自分でしていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設入所すると、本人との関わりが減ってしまう家族も多いため、基本的に受診は家族対応とし、関わりを持つ機会を作っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	付き添いがあれば外出・外泊は自由、面会の回数などについて制限は行っていなかったが、コロナ禍のため、感染状況を見ながら、外出、外泊、面会の制限や禁止を行っている。そのため、交流の機会は減少している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りながら、入居者同士のコミュニケーションを支援するように心がけている。自然とフロアに入居者が集まってくるようになった。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	和楽居より入院した方に関しては、退院が決まった際に受け入れ可能なレベルであれば優先的に受け入れを行っている。また、ADL状況や空き状況により受け入れが困難な場合は法人内外の施設との調整も含めて相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前のアセスメントにて本人の意向確認を行い、把握に努めている。入居後も居室担当を決めて、本人の意向を確認するようにしている。やりたい事など希望が出た際には、安易に禁止せず、安全に行うにはどうするか？という視点で検討している。	家事手伝い時の会話や一緒に座ってゆっくり話を聞く時間をつくり、利用者の思いや意向の把握に努め、記録して共有している。利用者の希望を取り入れた縁起物のおせち料理や季節感のある食事の時は、生き生きとして満足した表情が見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に在宅で担当していたケアマネより情報提供をしていただくなど、連携に努めている。また、本人や家族から生活歴の聞き取りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画の評価時などに定期的にあセスメントを行い、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、ひとりひとりが役割を持てるように考え、チームとして作成している。	利用者や家族等の意向を大切に一人ひとりの目標を作り、今の生活で出来ることは継続してやってもらうようにしている。変化が見られた場合はその都度家族等と話し合い、担当者の提案や部門会議等で意見交換を行い全職員の意見を反映して計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日介護記録、排泄や食事量のチェックを記入し計画見直し時に活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は進んでいない。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の付き添いは家族対応としているが、受診時の状況報告書を作成している。また、日常的なやりとりは施設で行い、主治医との連携に努めている。	本人や家族が希望するかかりつけ医としており、基本は家族付き添いとしている。病院からの紹介で入居し継続して通院する方が多く、受診の際は「状況報告書」で情報提供し、医師からは診断結果記入の上返却され職員・家族間で共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションきずなと契約し、週1回の体調管理、確認をもらい、24時間体制で相談できる体制を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者が入院した場合、入院した病院の相談室や病棟看護師と情報交換をしている。また、協力医療機関は同一法人であるため、連携を取りやすい。</p>		
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前に、歩行ができなくなった場合や共同生活を行うことができなくなった場合は、別の施設へ移ってもらう必要がある事を説明している。また、「重度化対応・終末期ケア対応指針」を整備している。しかし、その部分について医療関係者と連携はできていないが、終末期の看取りなどの事例はない。</p>	<p>契約時に看取りはしない事を説明し理解を得ている。浴槽が跨げなくなるなど機能低下が見られグループホームでの生活が難しくなった場合は、主に他施設への転居について家族と話し合い、生活方針が決まるまでは出来る限りの支援を行っている。</p>	
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>毎年、法人介護安全委員会主催で緊急時対応学習会を開催しており、それに参加している。</p>		
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回防災訓練を行っている。2018年に防災マニュアルを法人統一に変更し、避難確保計画も作成済み。地域との協力体制は整備できていない。</p>	<p>4月に夜間火災想定で避難訓練を計画し、運営推進会議委員の参加も予定していたがコロナ禍のため利用者職員のみで実施している。反省点はマニュアルを再確認するなど解決に向けて取り組み、今後はショートステイ事業所と更なる連携も予定している。</p>	<p>避難後の生活を考慮し、緊急連絡先や既往症・服薬内容などの利用者情報を持ち出しやすい形で整備することに期待したい。</p>
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>eラーニングにてプライバシー保護の学習を行った。また、倫理・接遇について「虐待の芽チェックリスト」を使用したチェックを定期的実施している。</p>	<p>利用者の訴えは否定する事なく受け止め、傾聴してその方の世界観を尊重し、不穏になる方には家庭のような雰囲気づくりをするなど統一した対応で、落ち着きを取り戻している。日ごろの声掛けも言葉を選び、自尊心を傷つけないように注意を払っている。</p>	
36		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常的な声かけをする場面で希望を聞き出すようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務を優先することがないように、部門会議等で意思統一を図っている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装について支援が必要な方には職員が支援を行っている。出張美容室や床屋に来てもらい、散髪や白髪染めをしてもらっている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り、片付けは職員と入居者が一緒に行っている。また、季節や行事に合わせた食事の提供を行うように献立を作成している。日常的な声掛けの中で、入居者の食べたい物を聞き出し、献立に反映している。	食材は主に地域の商店に発注して、利用者と職員の手作りで希望も取り入れながら提供している。コロナ禍の影響で制限を受けた外出などに替え食の楽しみを重視し、季節や祭りを意識した郷土食・行事食、また出張ラーメンや寿司・弁当などの出前は特に喜ばれている。	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医よりロミ使用の指示がある方や、減塩の指示がある方は対応している。また、食事の量も入居者ごとに調整している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助や声かけを行いながら実施している。2019年9月より、歯科衛生士を配置し口腔状態の把握や口腔ケアに力を入れている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ずつ排泄チェック表を使用して排泄間隔などの把握を行い、定時誘導、リハパン確認など、その人に合った支援を行っている。	利用者の排泄状況を把握し、時間を見ての誘導・夜間のポータブルトイレ使用など、一人ひとりの現状に合わせた支援で今できていることを維持できるよう努めている。声掛けや自立の方の確認は、羞恥心に配慮してさりげなく行っている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトを取り入れている。また、毎日水分摂取量を確認し、食事以外で1日1000ml飲むように支援している。運動はラジオ体操等の運動を毎日行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴日、入浴時間は決めているが、外出や拒否があった場合には日にちや時間の変更、足浴を行うなどの対応をしている。</p>	<p>週2回の入浴を目安にして、利用者の気分に応じ嫌がる時は無理強いせず、日時や職員を替え臨機応変に対応している。手すりやすべり止めマットを設置して転倒防止など安全に配慮し、職員と会話しながら気持ちよく入浴している。</p>	
45		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>必要な寝具を持参いただくなど、快適に眠れるように支援している。また、消灯時間は決めているが、「時間になったから寝てください」という対応ではなく、眠りたい時間に寝ていただくようにしている。日中も自由に過ごしていただき、横になりたい時には横になっていただいている。</p>		
46		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬局から貰う薬の説明書を個人台帳にファイルし、いつでも閲覧できる状態にしてある。また、服薬チェック表を作成し、内服の支援を行っている。</p>		
47		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>調理、掃除など、その方が得意なことをしていただいている。</p>		
48	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>雪がない時期には希望があった時に散歩を行っている。また、地域や法人の夏祭りへの参加や外出レクなどで、冬期間以外は月1回程度は外出する機会を作っていたが、コロナ禍であるため、散歩以外の外出レクはできていない。</p>	<p>年間計画で予定していた外出は中止せざるを得なくなり、近隣の公園で花見や日々の散歩で外気に触れ気分転換をしている。また駐車場にテーブルを出し芋煮会をするなど、少しでも楽しんでもらえるよう工夫している。</p>	
49		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>居室に鍵のかかる金庫がないため、事務所の金庫にて保管をしている。ただし、どうしても手元に置きたいという方に関しては自己管理をしていただく場合もあるが、施設での責任は負えないと話している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は支援している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お雛様やクリスマスツリーなど入居者様と一緒に飾り付けをしている。また、外出や行事の写真を壁に飾ったり、季節の飾り付けを行ったりしている。	日中はほとんどの利用者が自然とホールに集まり、家事手伝いやぬり絵をしたりお茶の時間には職員と会話を楽しんでいる。利用者同士の関係性を考慮して、皆が気分よく過ごせるようテーブルや椅子を配置している。職員はマスクとゴーグルを併用したり、飲食時には衝立を立てるなど感染防止対策を行っている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットに和室があり、テレビやソファを置いている。			
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等を持ってきてもらうように話している。別途料金がかかるが、こたつ、テレビなど電化製品を持ち込んでいる方もいる。私物持ち込みについて特に制限せず、居室内は自由に部屋作りをしていただいている。	居室にはベッド・クローゼットが備え付けてあり、小型の仏壇や位牌など馴染みの物や使い慣れた物を自由に持ち込み、自宅の茶の間のような雰囲気でも過ごしている。身体状況に合わせて家具を配置し、変化があれば見直して転倒防止等に努めている。		
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差なし。廊下には物を置かないようにし、歩行の妨げとならないようにしている。			